

平成23年度 事業評価（事業活動記録）

事業No. 81

政策体系	21	事業分類	施設管理費	所管部局	美山支所 地域総務課
会計	一般会計	科目	2. 総務費 - 1. 総務管 - 9. 地域振 現年		
事業名	地域振興関連施設管理運営費				
細事業名	南丹市美山大野ダム公園管理運営費				
				評価表作成者	美山支所 地域総務課 村田 文雄

1. 事業の概要

大野ダム及びダム周辺の管理のための必要経費を支出した。

2. 事業の目的と必要性

- ①施策で目指す目標との関連付け
ダム湖を利用し豊かな自然環境を活かしたレクリエーション施設として親しまれる公園施設として設置。
- ②事業を実施する必要性
農山村地域における産業振興とレクリエーション施設として親しまれる公園を、市民及び来訪者に提供し、活力あるふるさとづくりの拠点として地域活性化を図ることを目的とする施設の管理運営。

3. 事業費の推移

		単位	平19決算	平20決算	平21決算	平22決算	平23予算	平24計画	平25計画
決算額または計画額		千円	4,500	4,221	3,659	3,671	3,787	3,738	3,738
うち一般職・嘱託職・臨時職の給与および共済費等		千円	0	0	0	0	0	0	0
財源内訳	使用料・手数料等	千円	0	0	0	0	0	0	0
	国・府支出金	千円	0	0	0	0	0	0	0
	地方債	千円	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	4,500	4,221	3,659	3,671	3,787	3,738	3,738
職員等の従事人員	人/年	—	0.15	0.31	0.42				
人件費	千円	—	870	1,030	1,948				
事業費総額	千円	—	5,091	4,689	5,619				

※事業費を要しない場合は「0」、事業を実施しない場合は「空白」で表示。
※千円未満を四捨五入し表示しているため、合計等が一致しない場合がある。

4. 主な事業費の内訳

消耗品代	46,863円
光熱水費	147,450円
修繕費	129,897円
手数料	2,310円
管理業務委託料（指定管理料含む）	2,496,900円
保守点検業務委託（公衆トイレ）	847,875円

5. 事業結果の概要

大野ダム公園での各種イベントの実施により、多くの来訪者があるが、管理業務委託することにより、行き届いた管理体制が可能となった。

6. 活動の詳細

その他		
年間を通じて、公衆用トイレの管理を行なった。	平成22年4月～平成23年3月	公衆用トイレの管理と清掃
指定管理者により、年間を通じて、周辺施設の管理を行なった。	平成22年4月～平成23年3月	花木の管理(公園内立木防除作業)
指定管理者であるダムパーク大野により、大野ダム湖面を利用した貸しボートや広場を利用したパターゴルフ等を運営した。	平成22年4月～11月	大野ダム湖面を利用した貸しボート2,160人 パターゴルフ907人
大野ダム公園において、桜まつり、もみじ祭、ふるさと茶屋が実施された。	桜まつり 平成22年4月 もみじ祭 平成22年11月 ふるさと茶屋 平成22年4月～11月	利用者延べ30,000人

7. 所属長評価〔平成20年度から改善した点、今後の展開など〕

美山の西の玄関口としてダム湖畔に施設整備を行い集客を図ってきたが、近年、交通動線の変化などにより利用客が減少しており、観光交流施設として有効活用を図るために地元住民と議論してきた。
現在、地元からダム周辺地域を京都府景観資産登録に提案申請されており、施設への誘客PRを図るとともに地域振興の拠点施設として利用改善の計画策定が必要である。

【参考】過年度の評価

■平成22年度の所属長評価

時代の変遷の中で、施設の集客力が低下してきている。地域の都市農村交流の拠点として、どう有効利用を図るかを地域住民と議論してきた。通過交通量の減少、利用者ニーズの多様化、施設の老朽化等に即応した新たな利用改善計画の再構築について、地域づくりの視点に立ち樹立する必要がある。

■平成21年度の所属長評価

- ①事業執行にあたり議論を重ねた点
地域の都市農村交流の拠点としてどう有効利用を図るかを議論した。
- ②当該事業のアピール事項
イベントや農産物販売を通じて地域づくりの拠点として定着し継続している。
- ③反省点、今後の展開・方向性等
交通量の減少、利用者ニーズの多様化、施設の老朽化等に即応した新たな利用改善計画の再構築が必要である。